韮山反射炉　静岡県

昨年12月には近くにガイダンス・センターもオープン、反射炉の仕組みなどを分かりやすく解説する

反射炉のそばに展示される24ポンド・カノン砲（レプリカ）。韮山でも多数製造されたらしい

反射炉の内部。ドーム状なのが分かる

黒船にとって気になる存在

伊豆半島の付け根にある伊豆の国市。その内陸部に「韮山反射炉」が聳え立つ。4本の白亜の四角柱型煙突は地域のランドマーク的存在だ。

反射炉とは1800年代欧米で主流の製鉄炉。レンガ造りの炉の上面をドーム状にし、熱反射で高温を叩き出すと言う仕掛け。安政4（1857）年完成だから、実は八幡製鉄所（1901年完成）よりも遥かに古い。

地元の韮山代官で、欧米の先進的な軍事技術に精通する江川太郎左衛門によるもの。嘉永6（1853）年の黒船来航で幕府は国防を痛感、急ぎ江川に近代的な鉄製大砲の製造を指示。材料となる鉄を効率的に得るための製鉄所として建設され、大砲を一貫生産し江戸沖のお台場に運んだ。

当初は伊豆・下田付近にあったが、ペリーの寄港の際、軍事秘密の収集とばかりに反射炉周辺を詮索したため韮山に移設したと言う。

完全な形で現存する反射炉としては世界唯一で、2015年「明治日本の産業革命遺産」の一つとして世界文化遺産登録。昨年末にはガイダンスセンターもオープン。

協力：伊豆の国市文化財課